

底魚資源調査（夏季）を実施しました

水産試験場では、本県沖の主要な底魚類の資源動向を把握するため、平成15年から調査船いばらき丸（179t）により年2回（夏季、冬季）の着底トロール調査（オッタートロール）を実施しています。本調査では、本県沖の水深75～450mまでの海域、合計29定点において、15～30分間（速力3～4ノット）網を曳き、面積密度法により本県海域の現存量を推定しています。今回は令和4年7、8月に実施した夏季調査結果についてお知らせします。

1 主要な底魚類の推定現存量の推移

平成24年から今年度までの推定現存量の推移を下表に示しました。また、参考として、県で資源評価を行っている魚種については資源水準も記しました。なお、近年の水揚げ状況を考慮し、今回からズワイガニとベニズワイガニの代わりに、マアナゴとマトウダイを掲載しております。

漁獲対象種の増減傾向を下記の方法で判定した結果、増加傾向にあるのはアオメエソ（めひかり）とマトウダイの2種、横ばい傾向にあるのはヤナギムシガレイ、ババガレイ（なめた）、ユメカサゴ（のどぐろ）など6種、減少傾向にあるのはマコガレイ（本まこ）、アカムツ、キチジ（あかじ）など8種でした。その他、漁獲対象とはなっていないトラザメ（ねこざめ）は減少傾向、テナガダラ（とうじん）は横ばい傾向でした。

表 推定現存量の推移（夏季トロール調査）

魚種/年度	(単位:トン)												増減傾向	水準※	過去10年平均※
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4				
ヤナギムシガレイ	27	45	48	52	127	71	64	45	27	23	28	横ばい	低位	53	
ババガレイ(なめた)	91	77	71	53	96	79	70	49	25	17	52	横ばい	-	63	
アカガレイ(赤がれい)	65	4	5	5	109	29	10	1	2	1	0	減少	-	23	
マコガレイ(本まこ)	28	5	5	16	29	26	19	50	14	18	5	減少	低位	21	
マガレイ(沖まこ)	37	7	11	23	20	16	15	5	1	0	0	減少	低位	13	
ムシガレイ	20	15	17	31	135	155	92	152	115	228	143	横ばい	高位	96	
ミギガレイ(にくもち)	83	197	107	65	162	111	105	85	36	46	77	横ばい	-	100	
ヤナギダコ(水だこ)	267	313	213	250	199	217	270	111	68	77	57	減少	低位	198	
アオメエソ(めひかり)	27	409	69	48	312	193	260	57	110	160	191	増加	高位	164	
チゴダラ(どんこ)		163	173	156	387	242	151	157	130	223	80	横ばい	-	198	
マダラ	724	166	179	144	142	16	56	3	4	0	2	減少	-	143	
アカムツ		2	25	21	22	23	14	24	15	13	13	減少	-	18	
ユメカサゴ(のどぐろ)		22	29	26	32	111	189	78	30	37	70	横ばい	高位	62	
キチジ(あかじ)	50	21	10	15	31	64	52	13	23	9	4	減少	-	29	
マアナゴ		5	49	34	48	31	35	19	26	20	7	減少	-	30	
マトウダイ		4	27	24	70	34	5	29	17	18	20	増加	-	25	
参考															
トラザメ(ねこざめ)	604	1,616	777	1,119	960	1,603	1,231	1,629	1,027	1,077	385	減少	-	1,164	
テナガダラ(とうじん)		977	1,389	6,559	1,126	907	1,113	2,116	340	1,210	1,937	横ばい	-	1,749	

※: 水準:「茨城県産重要魚種の生態と資源」(令和4年3月更新、水試ホームページ)で報告している資源水準。-は未評価。  
※:チゴダラ、アカムツ、ユメカサゴ、マアナゴ、マトウダイ、テナガダラは、H25調査から推定現存量を計算しているため、過去9年平均を掲載。

(参考) 増減傾向(増加・減少・横ばい)の判定方法

増減傾向の判定方法を図1に示しました。年変動率は直近5年間の推定現存量の推移(回帰直線の傾きの大きさ等)から求めます。

アオメエソ(めひかり)を例に用いると、「①年変動率は-2%(±5%以内)」で、直近の推定現存量が「②3年以上連続で増加」のため、増減傾向は「増加」と判定しました(図2)。

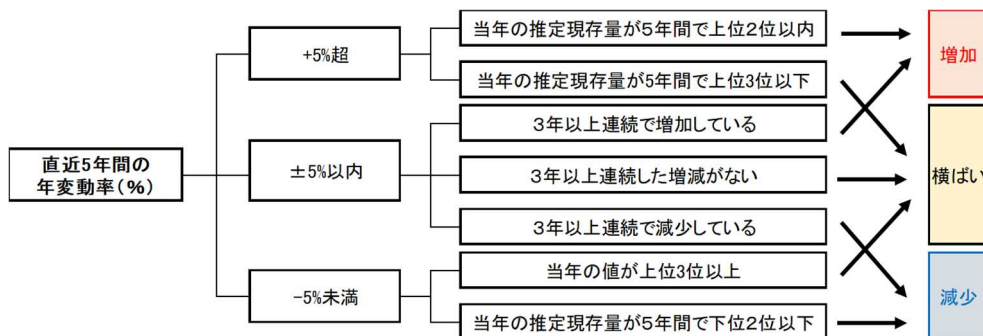


図1. 増減傾向の判定方法

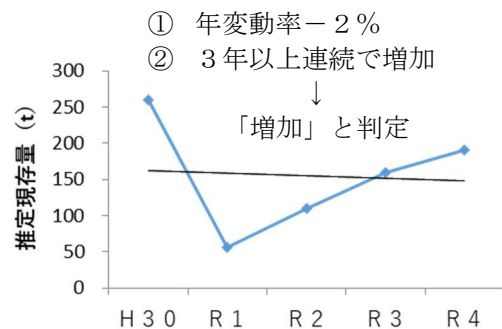


図2. H30～R4のアオメエソ(めひかり)の推定現存量の推移と回帰直線

(水産試験場 定着性資源部)

【次回予告】令和4年10月28日発行の水産の窓は「令和4年10月の海況と今後の予測」を予定しています。